

愛用の手を遂に輸入関係の改定により、遂に今日の為替下落を通じての為替の暴落を招き、
 せしめられた。各國の意欲して高率関税の改定をなす以上、これを感ずる道は、
 必らずあるのみである。各國の金本位制の停止を余儀なくするものは、
 必らず、此に對策を講ずるに非ざらん。以上の関税の増徴が染病の起る原因となり、
 此の状況は、
 1. 7. 25. 日 2. 7. 25. 日 3. 7. 25. 日 4. 7. 25. 日 5. 7. 25. 日 6. 7. 25. 日 7. 7. 25. 日 8. 7. 25. 日 9. 7. 25. 日 10. 7. 25. 日

株	33%	4%	株	株	株
株	0.52	1.72	株	4.3	4.4
株	1.5	2.4	株	3.6	0.5
株	6.34	1.5	株	5.6	2.2
株	3.3	3.1	株	5.6	4.6

1. 世界経済會議は、非債償の懸念から、更に一歩を進めて、世界恐慌克服の諸條件を國際
 的協定によって作ることを意圖の下に、大改訂新聞(4月日)の如く、
 (一)通貨及信用政策 (二)物価の
 引上げ (三)資本移動の自由 (四)國際貿易制限 (五)関税及條約政策が、よくその所期の目的を達
 成することが出来ず、遂に衆期林会となり會議開催以前より尙對立は激化して、ある。
 自國の資本主義の安定は、他國資本主義の犠牲によつてのみ救はれる段階にある。今日の第
 二期資本主義めりとして、このことは当然適する当然のことであつて、最後は、帝國主義戰

争によつてのみ解決されるであらうと同時に、深く振り行く世界恐慌の中に、其の持つ特殊
 の社会主義経済組織のために独り驚くべき加速度的な歩痕をなして、
 1. 7. 25. 日 2. 7. 25. 日 3. 7. 25. 日 4. 7. 25. 日 5. 7. 25. 日 6. 7. 25. 日 7. 7. 25. 日 8. 7. 25. 日 9. 7. 25. 日 10. 7. 25. 日

三 日本資本主義の諸情勢

日本資本主義は、世界資本主義の一環である。従つて世界資本主義の波瀾の中に在るは、
 こと勿論であるが、特に資本主義発展への出奔の途程は、
 1. 7. 25. 日 2. 7. 25. 日 3. 7. 25. 日 4. 7. 25. 日 5. 7. 25. 日 6. 7. 25. 日 7. 7. 25. 日 8. 7. 25. 日 9. 7. 25. 日 10. 7. 25. 日

前大会より本大会に至る一ヶ月間の日本資本主義の情勢は、
 1. 7. 25. 日 2. 7. 25. 日 3. 7. 25. 日 4. 7. 25. 日 5. 7. 25. 日 6. 7. 25. 日 7. 7. 25. 日 8. 7. 25. 日 9. 7. 25. 日 10. 7. 25. 日

一、に見逃がして置かないことは、此の生産の増大は、
 1. 7. 25. 日 2. 7. 25. 日 3. 7. 25. 日 4. 7. 25. 日 5. 7. 25. 日 6. 7. 25. 日 7. 7. 25. 日 8. 7. 25. 日 9. 7. 25. 日 10. 7. 25. 日